

連載

フィールド・アイ

Field Eye

アーバインから——①

流通科学大学 丸山 亜希子

Akiko Maruyama



アーバイン市の保育・学童事情

ありがたいことに、カリフォルニア大学アーバイン校で、2018年9月から1年間の在外研究の機会が与えられた。渡米準備にあたって我が家で大きな問題となったのは、5歳になる娘の保育問題であった。2018年度、娘はカリフォルニア州ではキンダーガーデンの学年で、小学校、幼稚園、保育園のいずれかに通うことができる。今回は、我が家が施設をどのように決められたか、その経緯をカリフォルニア州の制度を紹介しながら記したいと思う。

最初に、カリフォルニア州における小学1年生までの学校の種類を簡単に紹介しておきたい。3歳前後～5歳の子供は日本の幼稚園にあたるプレスクールに通うことができ、その大半は私立校となっている。多くのプレスクールが働く母親のために朝7時頃～午後6時頃まで子を預かってくれ、保育園の機能も兼ね備えている。カリフォルニア州のプレスクールは、運営に州の免許が必要であるが、免許は施設の安全基準、衛生状態、広さに対する定員など、最低限の条件を定めたものとなっている。このため、最終的には保護者が各スクールを訪れ、教育方針・カリキュラムなども確認し、通園させるか判断する必要がある。この判断の助けとなるよう、アーバイン市のウェブサイトでは、National Association for the Education of Young Children (NAEYC) というワシントンDCにあるプレスクール団体のウェブサイトが紹介されている。ここでは保育の質に関する情報が提供され、何を基準に判断すれば良いかが解説されている。さらに、NAEYCが認可したプレスクールを検索することもできる。

日本の幼稚園・年長組に相当する5～6歳は、小学校内に設けられているキンダーガーデンに入学することができる。公立のキンダーガーデンの場合、州の在住者は国籍に関わらず、無料で教育を受けることができる。私立のプレスクール内に有料のキンダーガーデンが設置されている場合もある。キンダーガーデンは小学校入学前準備を目的とし、集団行動、読み書き、算数の初歩を学ぶ場となっている。授業はお昼までとなっているところが多い。キンダーガーデンが終了すると、小学校 (elementary school) に入学する。また、カリフォルニア州の公立校の場合、英語が母語でない生徒はELD (English Language Development) という英語プログラムを受けることができる。

我が家は当初、午後6時まで預かってもらえるという理由でプレスクールを探し始めた。アーバイン市のウェブサイトには、市内にあるプレスクールの一覧表があるため、それを参照しながら各校に空きがないか直接コンタクトを取ることになる。このような申し込み形式を取るためか、市全体の待機児童数は公表されていないようであった。

アーバインには教育熱心な親が多いことが知られており、特にモンテッソーリ教育を行うスクールが非常に人気で数多く存在する。人気校には1～2年前から並ばないと入れないと、アーバイン滞り経験者たちから聞いていたため、渡米の半年以上前から申し込みをして返事を待つという活動を行った。しかし、ほとんどのスクールから定員に達していることを理由に断られてしまった。また、保育料が高額であり、大学に一番近いモンテッソーリ系プレスクールでは、午前7時～午後6時までの5歳児の預かりで1カ月あたり1525ドル (派遣時のレートで17万800円) であった。中には1カ月あたり3000ドル近い所もあり、我が家は高額の保育料を理由にモンテッソーリ教育のキンダーガーデンは断念した。モンテッソーリ教育を行わないプレスクールを調べたところ、1262～1345ドルであり、日本の保育料と単純に比べてしまうとやはり高額に感じられる。しかし、United States Census Bureauによると、アーバイン市の世帯所得の中央値は9万3823ドルである。州全体では6万1489ドルであるので、これと比較してもアーバインは世帯所得の高い地域と言えるであろう。こうした世帯所得を考慮に入れると、アーバインに居住している人たちにとって、保育料はそれほど高額ではないのかもしれない。

渡米準備を進める中、子供達をアーバインの公立小学校と私立小学校に通わせているお母さんに話を聞くことができた。アーバインはアメリカの他の地域に比べ世帯所得が高いことから、公立校でも教育の質は比較的高いと言われている。実際、そのお母さんに公立校の感想を尋ねたところ、「悪くない」ということであつた。さらに、公立でも「チャイルドケア」といって各小学校に1つ、放課後から午後6時まで預かってくれる施設がある事も教えて頂いた。調べてみると、チャイルドケア施設は日本の学童に相当するもので、州から免許を付与された民間企業が運営していた。しかし、渡米前にチャイルドケアの申し込みを行うことはできず、公立小学校のキンダーガーデンに入学させることだけ決め、渡米前の入学準備は一旦終えることにした。

渡米後、通学する公立小学校が決定し、早速、学内にあるチャイルドケアを申し込んだ。しかし、長いウェイティングリストがあることを知らされた。移民の多い国ならではの、英語が母語でない家庭が、共働きでなくても英語習得を目的として申し込むことがよくあり、ウェイティングリストをさらに長くしているようだ。こうして、いつになったらチャイルドケアに入れるのか、という不安な日々を過ごすことになってしまった。後から聞いた話であるが、チャイルドケアに入るためにキンダーガーデン入学の半年以上前から順番待ちをしていた人もいたという。

なお、チャイルドケア施設を見学させてもらったが、小学校の敷地内にあり、教室の並びにある部屋を使用していた。定員が一学年5～6名のため、部屋はそれほど広くはなく、スタッフが5名ほどで運営していた。施設内では昼食やスナックを食べたり、学校の宿題をしたり、絵を描いたりする。費用は週に5日、午前11時半から午後6時までの預かりで月に790ドルであつた。

公立のキンダーガーデンは、朝8時から始まり午前11時半で終わるため、チャイルドケアの順番待ちをしている間は、朝登校してもすぐに迎えに行かねばならない。そこで、他に娘を預かってくれるところがな

いか調べることにした。すると、一部のプレスクール、民間の語学教室、アーバイン市などがアフタースクールプログラムを運営していることがわかつた。市の運営するものは次の日から参加しても良いということだったので、早速、我が家は娘を預けることにした。

市の運営するアフタースクールプログラムは、放課後から午後6時まで子供を預かってくれる。そこは市の施設を利用し、娘の通う小学校だけでなく近隣の複数の小学校からも子供たちを受け入れており、規模は比較的大きなものである。スタッフの数も常時10名前後いる。プログラムでは小学校の宿題をする以外に、公園で遊んだり、施設の大部屋で工作を行ったりする。娘は午前11時半から午後6時までの預かりのため、費用は1日あたり33ドルである。週に5日通わせると1カ月あたり約700ドルとなる。1年生以上の預かりは午後6時までの預かりで1日あたり23ドルである。いずれも1日あたり5ドルを加算すると小学校と施設の間のお迎えもお願ひできる。市が運営しているため、他の地区でも同様のアフタースクールプログラムが実施され、他のチャイルドケア施設に入れなかった場合の大きな受け皿となっているようであつた。

日本でも学童施設の不足が度々話題になるが、希望する施設に入れなかった場合の受け皿となる学童サービスを市が提供する方法からは何らかのヒントが得られるかもしれない。また、プレスクールの様々な価格付けは待機児童問題の解消にもつながる可能性がある。大変興味深いものであつた。ともあれ、我が家の保育問題は9月中になんとか解決することができた。もっと準備を周到にしていれば、渡米後の問題は生じなかったかもしれないが、娘はアフタースクールプログラムを楽しんで通っているため、よしとしよう。

まるやま・あきこ 流通科学大学経済学部准教授。最近の主な論文に“*One-sided Learning about One's Own Type in a Two-sided Search Model: The Case of N Types of Agents.*” (2016) miemo. 応用ミクロ経済学、労働経済学、人口経済学専攻。